本願寺西山別院報
久遠 -QUON-
第41号

〒615-8107
京都市西京区川島北裏町29番地
Tel:075-392-7939
Fax:075-394-4416
e-mail: nishiyamabetsuin@msa.biglobe.ne.jp

ご縁を慶び、お念仏とともに

親鸞聖人 御誕生 850 立教開宗 800

輪番就任挨拶

本願寺西山別院 輪番
得度習礼所・教師教修所 所長
中原 敬恵

慈光照護のもと　皆様におかれましては益々ご清祥にて御法義ご相続のこととお慶び申し上げます。

このたび、四月一日付けにて本願寺西山別院輪番並びに得度習礼所・教師教修所所長を拝命いたしました。

伝教大師最澄により創建された「久遠寺」に起源をもち、本願寺第三代宗主覚如上人によって復興された「念仏の道場」であるこの別院は、宗門の次代を担う僧侶を養成する場でもあり、責務の重さを痛感いたしております。

私は、本年三月まで本願寺式務部にて奉職させていただいておりました。初めての別院勤務が、高校三年生の夏に習礼をうけ、御得度させていただいた西山別院となり、習礼の日々を懐かしく思い出すと同時に、初心にかえって威儀を正し、緊張とともに院務を勤めさせていただいております。但し、思い出のほとんどは、辛くて眠くて足が痛いという苦い思い出ばかりです。

昨年から続くコロナ禍に未だ翻弄されておりますが、その中でどうすれば阿弥陀様のみ教えを伝えていけるのか、お念仏を皆で慶ぶことが出来るのか、職員と共に試行錯誤しながら、今出来ることを一つずつ積み重ねていきたいと考えております。

当別院を支えて下さっている門信徒の皆様、境内にあります西山幼稚園園児をはじめ関係者の皆様、別院にご縁のある多くの皆様、何卒ご指導ご協力下さいますようお願い申し上げて、就任のご挨拶とさせていただきます。

合掌

新入職員紹介

長尾 祐大

はじめまして。四月より本願寺西山別院にて奉職させて頂いております。大阪教区島上西組眞楽寺衆徒長尾祐大と申します。

学生時代お世話になりました京都の地で勤務させて頂けることをありがたく思い、報恩感謝の気持ちで精一杯尽力させて頂きます。

皆様におかれましては、色々とご迷惑をおかけすることがあると思いますが、どうぞご遠慮なくご指導頂ければ幸いです。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で別院の様ざまな法要・行事が変更となっております。当院も対策を行っておりますが、皆様からの忌憚のない意見を取り入れていきたいと思っております。コロナ禍を別院と皆様、自他共に乗り越えていける空間づくりを目標とし、私の挨拶と代えさせて頂きます。

前輪番退任挨拶

学校法人本願寺学園
西山幼稚園園長
長屋 善洋

謹啓　慈光照護のもと　益々ご清祥のことお慶び申しあげます。

さて　このたび　四月一日付をもってご本山より宗務所出仕発令をいただき、西山別院輪番を退任いたしました。

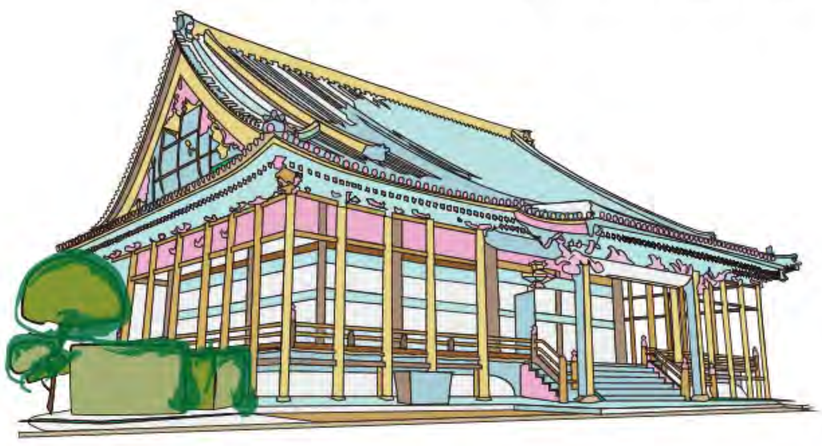
私事で恐縮ですが、前任の佐々木孝昭輪番が急逝され、二〇一八（平成三十）年四月一日から宗務所の僧侶養成部・所務部に在籍し、後任を務めることになり、「得度修礼・教師教修所所長」・「本願寺西山別院輪番」「（学）本願寺学園理事長・西山幼稚園園長」の三役を一人で勤める事となり、ご門主の任命辞令を拝して西山別院輪番職を三年間勤めさせていただきました。（宗務組織の一員として通算四二年間）

今般、「宗務所出仕」の発令をいただき、公益社団法人京都府私立幼稚園連盟理事に就任が内定しておりましたので、総局の内諾も得て、引き続き学校法人本願寺学園・西山幼稚園の理事長兼園長として園務に専念させていただきます。

後任の中原敬恵輪番には、設立母体の（宗）本願寺西山別院代表役員として、学校法人本願寺学園の理事（筆頭）・常務理事に就任いただいております。

本願寺西山別院に就任以来三年間にわたり勤務させていただきました。ここに　今日までお寄せいただいた皆様方からの格別なるお力添えに対し衷心より御礼申しあげます

敬具



退職の挨拶

村上 耀進

この度、正規職員として西本願寺に勤めさせていただいたくことになりました。

皆さまには直接報告させていただくことができなかったこと、お許しください。

西山別院では約二年半もの間お世話になりました。

ご門徒の皆さま、地域の皆さまには大変お育てをいただき、日々学ばせていただくことばかりでありました。

お参りや境内等でお会いした際に、いつも皆さまがとても暖かく接してくださったこと、改めて心温まる思いであります。

これからも変わらず京都には居りますので、また私を見かけた際はお気軽にお声かけください!!!!!

ともに念仏申す身として、一日一日を大切に過ごしてまいりましょう。

本当に有難うございました!

春季彼岸会 令和三年三月二十日

新型コロナウイルス感染拡大防止につとめ、参拝者の方々と共に春季彼岸会をつとめさせて頂きました。

福井教区　浅井一典先生より「凡情を捨てない仏様」を講題にご法話を頂きました。

講師
本願寺派布教使
福井教区　敦賀組
浄光寺住職
浅井一典　師

凡情を捨てない仏様

私のおあずかりしているお寺は福井県敦賀市にあります。敦賀はあまり雪が降るイメージがないかもしれませんが、お寺は山間の村の中にありますので、冬になると雪が結構降ります。雪が降ると大変なことは除雪をすることです。初めに降る雪は楽に除雪できますが、何度も降ると雪が水分を含んで重くなります。除雪できなかった部分が氷のように硬くなっていくことを根雪と言うそうです。

除雪しながら降り積もる雪を眺めていると、自分の心の中のようだと思いました。私たちは人生の中で様々な想いを抱えて生きています。流すことができなかった想いが心の底で氷のように根をはり固まって、抱えつづけているのではないでしょうか。その自らの想いを抱えながらしか生きることができない私を支えつづけてくださる仏様が阿弥陀様という仏様です。そのことをご門徒さんの姿を通して味わわせていただきました。

村のご門徒さんに息子さんを十五年前に仕事からの帰宅中、車の事故で亡くされた女性の方がおられます。亡くされてしばらくは憔悴しきって声をかけるのも躊躇うような状態でした。しかし息子さんを亡くされたことをご縁とされお寺にお参りされ、阿弥陀様のお話を聞いてくださるようになりました。お参りされた時に少しずつですが心境を話してくださるようになりました。「塞ぎ込んでいても仕方ないから、仕事も再開しました。時間が経つと少し楽になった気がします。」と言っていました。

この方の家の墓地が村の入口にあります。数年前に敦賀だけでなく北陸で大雪になりました。家の除雪をすまして車で出かけましたが、墓地にこの方の姿が見えました。お墓の上の雪を払いのけ手を合わせていました。次の日も雪が降り、雪を払いのけ手を合わせるその方の姿がありました。雪が降っては払いのけ、また雪が降る。いくら時間が過ぎようとも息子さんへの想いは無くなることがない、その姿から窺い知ることでした。時間が経てば楽になっていくこともあるかもしれませんが、息子さんが生きていればいまごろどうしていたか、結婚もしていたかな、様々な想いが亡くなった後も抱えつづけてきたことでしょう。お寺で阿弥陀様のお話を聞いてく中で「阿弥陀様はあったかいね」と自身の味わいを聞かせてもらいました。私はその言葉を聞いてその方が仏様のお心を頂かれたのだなと思いました。頂くことがなければ「あったかい」という味わいは出てきません。

生きていく中で自分の心の中に雪が降らなくなることはないでしょう。誰もが除くことができない想いを抱えて生きていかなくてはなりません。そんなあなたを捨てることなどできないと私に至り届いてくださり、支えてくださるのが阿弥陀様という仏様です。「凡情を捨てない」というお心そのままが、この口から南無阿弥陀仏のお念仏となって顕れてくださるのです。自ら称えるお念仏にそのお心を聞かせていただき、味わわせていただきたいことであります。

覚祖会

令和三年四月二十二日（木）二十三日（金）の二日間にわたり、西山別院開基覚如上人の御命日法要「覚祖会」が、修行されました。昨年は、当院の僧侶によるお勤め（内勤め）をさせて頂きましたが、今年度は外陣障子を開放し、感染症対策を十分に行った上で、勤めさせて頂きました。

本願寺布教使の北浦思朗先生（滋賀教区稲枝西組光嚴寺住職）より、「現実に生きる」の講題で、ご法話を頂きました。

覚如上人（かくにょしょうにん）

本願寺第3代宗主（しゅうしゅ）。親鸞聖人の末娘である覚信尼公の孫。西山久遠寺（現在の西山別院）を創建、親鸞聖人の遺徳を讃迎する『御伝鈔』をはじめ、多くの書物を残され、本願寺教団の基盤を固められました。西山別院境内地北西に、覚祖廟（お墓所）があります。

覚祖廟参拝

西山幼稚園（にしやまようちえん）覚祖会（かくそえ）

五月三十一日（月）

コロナ禍が長期化する中、第一部と第二部の二部制で法要をつとめました。

園児代表による献花・献灯・献香の後、みんなで「きみょう〜むりょう〜じゅにょらい〜」と元気よくお参りをいたしました。

おやくそく

「わたくしたちは
みほとけさまを　おがみます
わたくしたちは
いつも　ありがとうといいます
わたくしたちは
お話をよくききます
わたくしたちは
みんな　なかよくいたします」

長屋園長は、いつも仏さまが見守ってくださっていることをお話くださいました。

中原輪番より覚如上人のお話をいただきました。

現実に生きる

講師
本願寺派布教使
滋賀教区　稲枝西組
光嚴寺住職
北浦思朗　師

このたび、西山別院において覚祖会のご縁を頂きました。覚如上人は本願寺第三代宗主であり、親鸞聖人がご往生されて八年後にお生まれになり、八十二年のご生涯でした。

覚如上人は、親鸞聖人三十三回忌にあわせて『報恩講私記』を、翌年には『親鸞伝絵』を著わし、親鸞聖人のお徳を讃嘆されました。それ以来「報恩講」というお仏事は、今日まで継承されています。また、三代伝持の血脈を明らかにして、今日の本願寺の礎を築いて下さいました。

上人がご往生されて六七〇年が過ぎた今、私たちがお念仏のみ教えに出遇えたのは、様々な時代状況のなかで念仏を相続されてきた本願寺の歴代宗主はじめ先人の方々のご労苦のお陰であり、まずそのご恩に感謝したいと思います。

さて、令和の時代に生きる私たちも様々な悩みをかかえて生きています。昨年来の新型コロナウイルス感染症もその一つです。

私たちの悩みは具体的であって、その悩み・苦しみにお念仏のみ教えはどのように応えてくれるのでしょうか。

卑近な話ですが、今から十年前、妻が乳ガンを患いました。その事実を聞いたとき、まさかという思いと、妻に先立たれたら、この先自分はどうしたらよいのかという、自分のことしか考えられませんでした。

病院の主治医より「悪性です。片方を切除したほうがよいと思います」と言われた時から手術当日までの2週間、私は悶々とした心で生活し、自然とお聖教である『歎異抄』を開いていました。

その第6条に「つくべき縁あれば一緒になり、離れるべき縁あれば離れていくものなのに・・・」（現代語訳）という御文に出会い、ハッと気付きました。

私と妻はご縁があって夫婦となり、生活をともにしてきたが、ひょっとしたら離れるべき縁がきたのかもしれない。この世は縁起によって成り立っているというのが、お釈迦さまが顕かにされた真理であるから、その縁起の法を受け容れていくしかないのではないかと頷いたとき、肩の力が抜けて、ホッとしたら安らかな心になりました。

私たちは自分の思いや希望をもって生きています。しかし現実はそのように行かないことの方が多いのです。この理想と現実のギャップに、私たちは苦しみ悩みます。

ともすれば逃げ出したくなる私の苦悩の現実を見つめるとき、その現実を生きる私を抱いてくださっている阿弥陀さまの温かい心（大悲心）に気付きます。

現実を見つめるとは、「これが今の私なのだ」と、理想を求める私の心がひっくり返ることです。今の私に落ちて着けば、私の現実のすがたに安らいでいけるのです。

お念仏は、阿弥陀如来が「心配するな、必ず救うから落ち着け」とよんで下さっている　み言葉です。そのよび声を聞き開き、現実の私を受け容れ、一歩一歩人生を歩んでゆく。それはそのままお浄土への人生なのです。

そして私の称えるお念仏は、阿弥陀さまの呼びかけに応える感謝のお念仏でありました。

「本堂障壁画八面」修理事業の報告について

『久遠』第三十七号三十九号の誌上にてお知らせいたしました、重要文化財「本堂障壁画八面」の修理事業についての進捗状況をご報告させて頂きます。

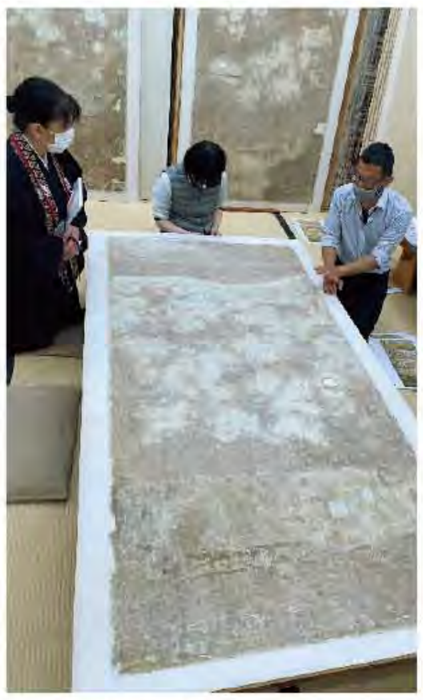
二〇二一（令和三）年五月十日、修理が行われている松鶴堂工房（京都国立博物館内文化財保存修理所）を視察いたしました。障壁画八面（松に藤図四面・桜に牡丹図四面）のうち、特に剥落が著しい『桜に牡丹図四面』の修理が行われていました。裏打紙の交換補修の段階で、普段は見ることができない障壁画の裏面からの『桜に牡丹図四面』を見ることができました。

工房保管の修理記録によると、明治時代の修理の際は、水を使用しない方法で補修がなされましたが、今回は、保存性をより高めるために水を使用する最先端の補修技術により修理が進められています。

今回の視察を通して世代を越えて受け継がれてきた「本堂障壁画八面」の文化的価値を再発見し、文化財を後世に残していくことの大切さを再確認することができました。

現在、修復中の『桜に牡丹図四面』

『桜に牡丹図四面』の裏面



古い裏打紙の除去作業が特に難航しているとの説明を受けました。

◆一六一八（元和四）年頃　徳力善宗作
江戸初期の本願寺お抱え絵師、徳力善宗の現存する唯一の作品。
画面いっぱいに描かれた巨大な老松に絡みつく藤。咲き乱れる満開の桜に鮮やかな紅が印象的な牡丹。桃山文化の気風を受け継いだ絢爛な金障壁画。（非公開）

松に藤図

桜に牡丹図

重要文化財指定【絵第1823号】昭和56年6月9日指定
本堂障壁画　八面
紙本金地著色松に藤図　襖貼付四
紙本金地著色桜に牡丹図　襖貼付四
寸法：各縦210.8センチメートル
　　横101.3センチメートル

親鸞聖人御誕生850年 立教開宗800年 慶讃法要

法要期日

2023（令和5）年に5期30日間

【第1期】3月29日（水）～4月 3日（月）6日間
【第2期】4月10日（月）～4月15日（土）6日間
【第3期】4月24日（月）～4月29日（土）6日間
【第4期】5月 6日（土）～5月11日（木）6日間
【第5期】5月16日（火）～5月21日（日）6日間

盂蘭盆会のご案内

亡くなられた先人たちのご恩に対し、あらためて思いを寄せるのがお盆です。

仏さまの国に往生された懐かしい人たち。阿弥陀如来さまの願力によってすみやかに悟りをひらかれます。そして、大いなる慈悲の心をおこし、迷いのこの世に還り来たりて、私共を真実の道へと導こうと常にはたらかれます。

西山別院では、八月十四日（土）に本堂において、盂蘭盆会を厳修いたします。

このお盆をご縁として、仏さまの教えを聴聞させて頂きましょう。

日時：2021（令和3）年
8月14日（土）
一部：9時30分～10時
初盆を迎える方
二部：10時30分～11時
一般参拝の方
三部：11時30分～12時
一般参拝の方
場所：本願寺西山別院　本堂

お盆期間中、墓地に休憩所を設置いたします。どうぞ、ご利用ください。

秋季彼岸会のご案内

彼岸とは、「さとりの世界」の意味で、仏となられた懐かしい方々がおられる阿弥陀如来の西方浄土のことです。彼岸会は、迷いのこの岸（此岸）をはなれて、さとりの岸（彼岸）にいたることのできる仏さまの教えを聴聞させて頂く法要です。

阿弥陀如来に抱かれて、先に浄土へお生まれになられた方々に導かれて、彼岸へと続くただ一つの道、この念仏の道のお謂れを共々に聴かせて頂きましょう。

西山別院では、九月二十三日（木）に本堂において、秋季彼岸会を厳修いたします。

日時：2021（令和3）年
9月23日（木・秋分の日）
一部：9時30分～10時30分
二部：11時～12時
場所：本願寺西山別院　本堂
講師：本願寺派布教使
四夷 法顕（しい ほうけん）師
（兵庫教区 阪神西組
信行寺住職）

新型コロナウイルス感染症への対応について

消毒液の各所設置、会場の換気など、十分な新型コロナウイルス感染予防対策を講じた上で法要を実施します。ご参拝の際は、手洗い、マスク、咳エチケットなどの感染症対策にご協力下さいますようお願い申しあげます。

西山別院でご法事をお勤めいたしませんか？

当別院では本堂や対面所でのご法事を承っています。新型コロナウイルス感染症の影響により、ご家族やご親戚が集まる法事の開催はいまだ難しい状況ですが、そのような中で、少しでも安心して皆様にお集まり頂けるよう、別院本堂をご利用ください。本堂内は、すべてイス席です。

ご法事をご希望される場合は、事前に日程調整などが必要となりますので、別院寺務所まで電話（075-392-7939）にてお問い合わせください。

西山御坊でSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「SDGs」とは、「持続可能な開発目標」の略称です。

2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

Sustainable Development 17Goals

久遠-QUON-第四十一号
二〇二一（令和三）年八月一日発行
編集・発行　本願寺西山別院　〒六一五-八一〇七　京都市西京区川島北裏町二九番地　電話〇七五-三九二-七九三九　FAX〇七五-三九四-四四一六
発行者　中原敬恵
印刷　株式会社アースワーク

あなたのお便りや写真をお寄せください。

あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をどうぞお寄せください。

皆さまからお送り頂いた写真を掲載いたします。ご家族、風景、植物、可愛いペットなど

送り先
〒615-8107
京都市西京区川島北裏町 29
本願寺西山別院「久遠お便り」係
e-mail：nishiyamabetsuin@msa.biglobe.ne.jp

投稿には、お名前（ニッネーム可）、ご住所、お電話番号をお忘れなく。作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであしからずご了承ください。

こんな写真あんな写真

本堂前の梅

大玉です!

梅の実を収穫
美味しい梅シロップ出来るかな???

梅酒作りに挑戦!

京都市右京区
しのちゃん

人生初のお花見を西山別院で♪

京都市
下京区
まこちゃん

ほほえみ広場

私の強情で貪欲な煩悩は尽きることはない。

京都市西京区 坂井久和さん

もうかれこれ十三年、磁石に吸い付けられるように、毎日毎日お寺・西山別院に足を運ぶようになりました。

お寺では毎朝法話を聞かせて頂きました。少しでも煩悩が弱くなり、煩悩の数が減ることを信じて通いました。

しかし、三年が経ち五年が過ぎても煩悩は一向に弱くもならず減ることもありません。

お寺通いをそろそろやめようとしましたが、足は自然とお寺に向かい、目は朝五時になったらぱっちりと開きます。お寺の本堂に入ると自分が決めた席に自然と足が向き、指定席に座ると手を合わせ、お勤めが始まると口からお経がこぼれ出てきます。もうお寺には行かずにおこうと思っても自然と足がお寺に向いて、今日もまたお寺に入りました。

以前、尊敬するお坊様に「私は七十を過ぎても、なお煩悩にとりつかれています。」と話しましたら、お坊様は「そうか、それは良かった。貴方が生きている証拠だ。」と仰いました。その時から私は生きている証拠である煩悩と一緒に一日一日を大切に過ごすようになりました。

一方、もう一人の自分が「少しずつ人のために」「人に喜ばれること」をするようにと体が動きます。毎日を笑顔で過ごせるように頑張ってと励ましてくれます。

こうして私の人生の表裏一体はバランスを崩すことなく働き、余生をお浄土への道へと導いてくれます。

西山別院と私の二人三脚がいつまでも続きますように

合掌